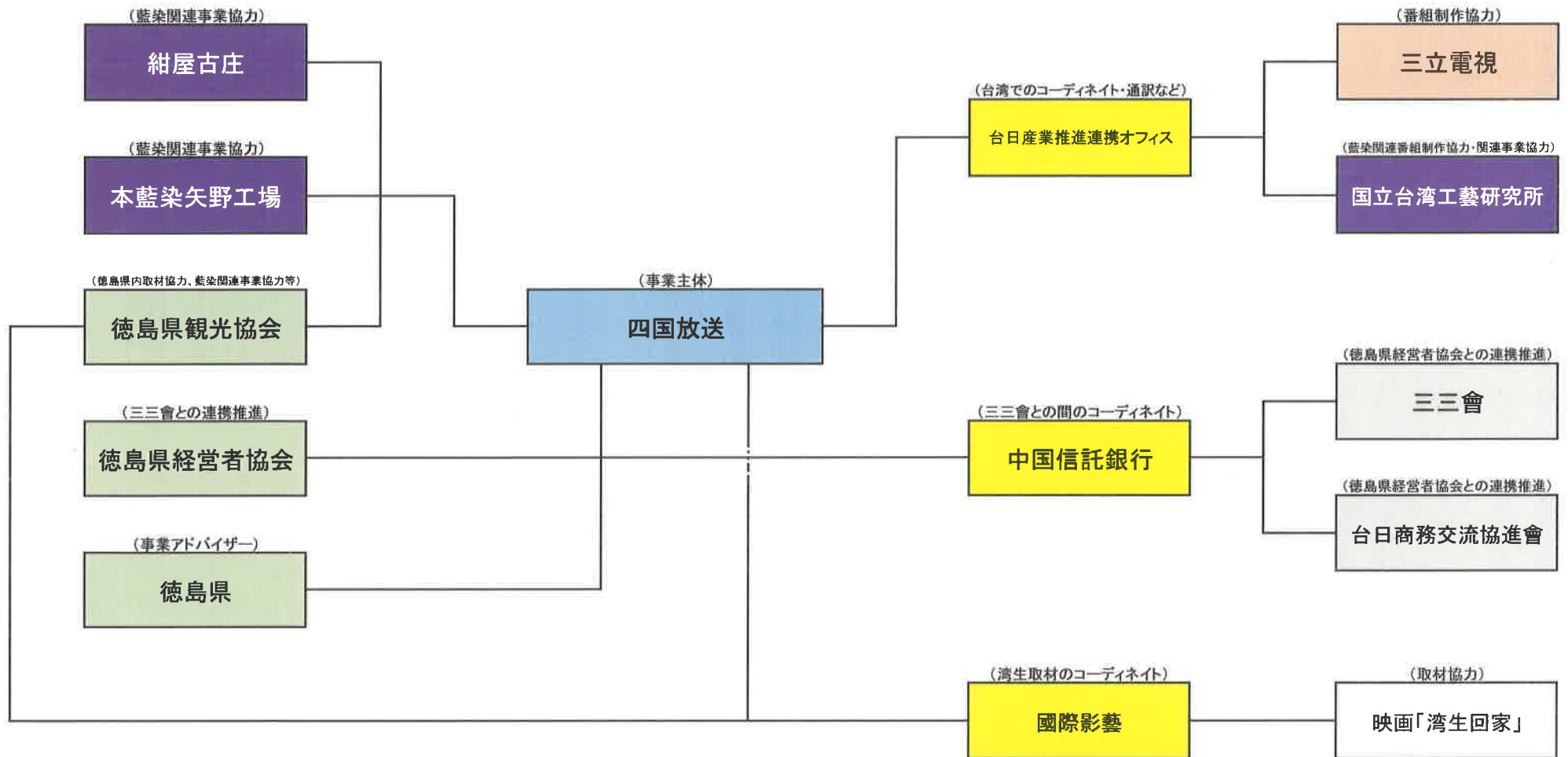


平成28年7月8日

テレビメディアと連動事業で
効果的に地域産業の海外展開を支援
～伝統文化「藍染」を中心とした
テレビ番組の活用で地域事業活性化

四国放送株式会社
編成局テレビ編成部長
武知 浩史







創設 1983年
社員数 1500名

三立テレビの持つチャンネル
(右記6チャンネル)

台湾台
(台湾チャンネル)

都會台
(都会チャンネル)

新聞台
(ニュースチャンネル)

MTV
(音楽チャンネル)

財經台
(経済チャンネル)

戲劇台
(ドラマチャンネル)

視聴可能世帯数 501万2159世帯

三立都会チャンネルの人気番組

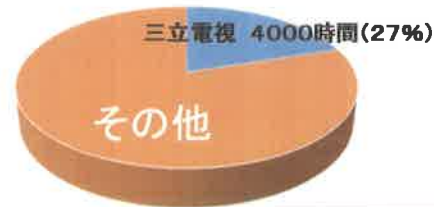
「命中注定我愛你」最高視聴率13.64%
「犀利人妻」台湾全土で1700万人が視聴する番組
「小資女孩向前衝」最高視聴率7.33%を獲得

台湾国内で
圧倒的視聴率

2014年11月7日 台湾の視聴率ベスト80に26番組がランクイン(シェア30%)



台湾におけるコンテンツの1/4を三立が制作



台湾で制作されるドラマのうち実に70%を三立が制作



台湾No. 1のケーブルテレビ局!

※データは三立電視・会社概要から抜粋



四国放送

SCTV 三立電視

共同制作体制を構築
 現地の意見を取り入れることで、台湾の視聴者に馴染みやすいテイストの番組とし、より多くのリーチ獲得を目指した

連動

番組で紹介した、徳島県の本藍染に興味を持った方がイベントでは数多く来場。染物関係者も少なくなかった。これにより、職人同士の新たな交流が数多く生まれ、今後の海外展開へ向けた第一歩となった。

1月に台北で開催されたイベント



様々なプロモーションで番組やイベントを後押し



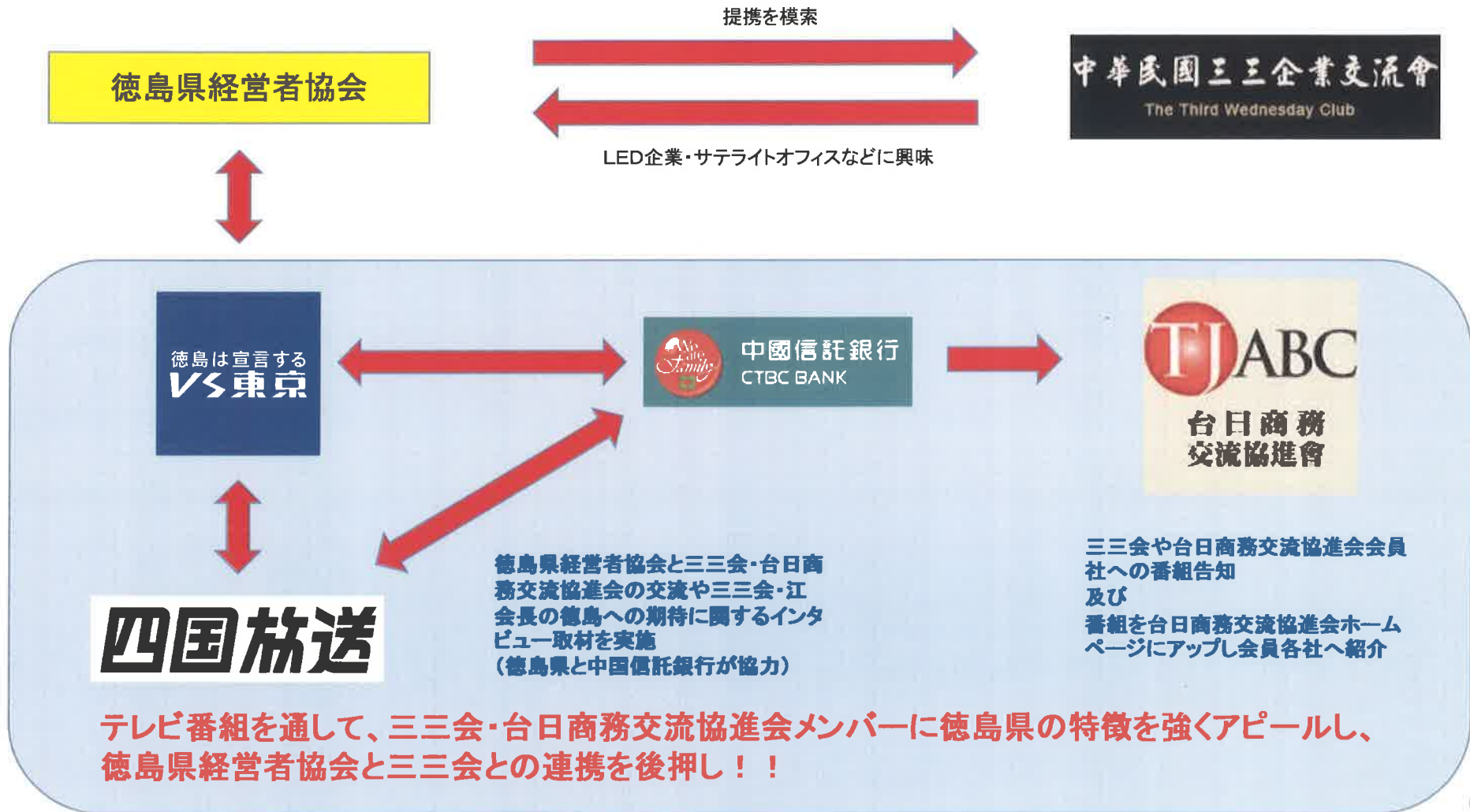
より多くの台湾視聴者の徳島への理解度を促進
 (特に藍染はイベントと連動)



イベントの様様



イベントでは番組で紹介したコラボ作品も販売



番組名

玩客瘋徳島

企画意図

「湾生」の歴史など徳島と台湾の知られざる関係を解き明かすとともに、徳島の食や観光などのさまざまな魅力も発信。台湾の方々が徳島を身近な存在と感じ、足を運んでもらう事を目的とする。放送分数は30分(中身22分50秒)×4本のシリーズもの。藍染を取り上げたシーンは、台湾でのイベント展開にシンクロさせるよう制作。さらにイベントでは新たな人的交流の促進もはかった。

主な番組内容

(第1話) 平成28年1月3日(日)9:30~10:00 及び 17:30~18:00 放送

県西部祖谷地方の魅力を紹介。かずら橋や妖怪伝説など江戸時代から秘境と呼ばれた地域の文化や風土を紹介。第2部では台湾と徳島の2つの故郷をもつ「湾生」に密着。70年前の想いに迫る。

(第2話) 平成28年1月10日(日)9:30~10:00 及び 17:30~18:00 放送

県東部鳴門市・徳島市の魅力を紹介。世界遺産への登録機運が高まる「渦潮」や鳴門海峡でとれた豊かな海の幸、400年続く遍路文化なども紹介。第2部では徳島と台湾との共通文化「藍染」でつながる職人同士の絆を紹介。

(第3話) 平成28年1月17日(日)9:30~10:00 及び 17:30~18:00 放送

県南部の美しい海の景色と海の幸、さらには地形を生かしたマリンスポーツの魅力などを紹介。第2部は「藍染」の後編。職人同士の新製品開発秘話をカメラが追った。

(第4話) 平成28年1月24日(日)9:30~10:00 及び 17:30~18:00 放送

総集編+紹介しきれなかったスポットも追加

第2部は経済連携。LEDをきっかけに広がりを見せる台湾と徳島の産業交流の今を追った。

共同制作体制

- ・徳島と台湾のつながり「湾生」、藍染文化の交流、経済連携という歴史的・文化的・経済的側面を中心にした番組構成を提案したが、三立電視側は、三立都會台の視聴者層に合わない(20代男女)との理由で、第1部を観光・グルメ、第2部を歴史・文化・経済とする2部構成とし、尺配分を第1部:第2部=2:1とした。
- ・徳島に留学中の台湾の方をレポーターを起用することで、台湾の視聴者に親近感を持ってもらいたいと考えたが、局アナかタレントをメインにしてほしいとの要望があった。(予算的に台湾人レポーターの起用ができなかった。)
- ・取材・編集は四国放送で行い、翻訳・MA・仕上げなどは台湾側で実施する事により、台湾の視聴者に馴染みやすいテイスト(違和感の少ない)の番組作りを目指した。
- ・基本的に、Lineを活用した連絡体制をとった。結果的に非常に密な連絡が取れただけでなく、証憑にも利用できた。

苦労した点

- ・撮影スケジュールが非常にタイトであった。特に台湾ロケに関するリサーチ、ロケハン、取材プランの立案に関する時間がほとんどとれず、現地取材の負担がかなり重くなった。結果、ロケハンをしながら撮影するなど厳しいロケとなった。
- ・弊社は、番組伝送作業(Google Drive)に慣れておらず、当初伝送作業において負担が大きかった。

視聴率獲得へ工夫

日本で制作した番組に単に中国語訳の字幕スーパーを入れるだけでは、台湾の方々に馴染みやすいテイストの番組に仕上がらない事を実感。
例えば、日本語では5秒かかるコメントも中国語に訳すと1秒で終わってしまうコメントもあり、この差を「間」としてしまえば、台湾流のテンションの高い口調でしゃべり続けるテイストには仕上げられない。
そこで、元来の意味を変えない範囲で台湾側でコメントフォローを入れていただき、文字数の差を埋めた。
こういった細かな作業を繰り返し行い、放送する国のテレビ視聴文化に即した番組としなければ、視聴者が興味を持って視聴しようと思える番組にはなりにくい。

展開内容

- 2か月に1回10万部発行する、三立電視の若者向け人気情報誌「愛玩客」に見開き2ページの番組広告を掲載。12月発刊
- 30秒の番宣スポットを三立電視にて制作・放送。

第1話	1 / 1~3	22本	
第2話	1 / 8~10	29本	
第3話	1 / 15~17	8本	
第4話	1 / 22~24	23本	合計 84本(サービス分も含む)
- 「愛玩客」FACE BOOKのトップページに番組広告を掲載(トップの壁紙のような部分) 期間は上記番宣スポット期間と同様
- 「愛玩客」のFACE BOOKページに 第1話~第4話まで番組内容を投稿。期間は上記番宣スポット期間と同様
- 「三立新聞網」(新聞台・財經台)において、番組動画及び記事を掲載。期間は放送終了後から1週間程度
- 三立新聞台にて、1/23~24に実施したイベントを紹介 (1月28日(木)24:00~放送のニュース)
- 三三会の姉妹団体・台日商務交流協進会のホームページに番組告知を投稿。(2015年12月11日に掲載)



イベント名

台日天然染色交流展－植物生命の延續

実施日

平成28年1月23日(土)～24日(日)

開催場所

華山文化創意園區 (台北市中正區)

主な内容

台湾で制作した布を徳島へ送り、徳島の藍染職人により様々な藍染に仕上げ、これを台湾側で商品化。

本事業では、コラボレーション作品を3点展示するほか、徳島側・台湾側の職人が制作した藍染製品(徳島側の展示作品は、テーブルクロス、名刺入れ、Tシャツなど26種類)を展示・販売。

また、初日の1月23日(土)にワークショップ(講座)を開催。

14:00～15:00「徳島の本藍染の発展」 矢野藍秀

15:30～16:00「天然藍染Q&A」 古庄紀治

※受講者(約50名×2講座)は事前に国立台湾工藝研究所がネット上で募集。

本事業により、台湾国内から藍染に興味のある人材を集める事ができ、徳島県の本藍染の素晴らしさを訴求。

事業にて実施したアンケート結果は、徳島県の事を知らなかった方も含め、すべてのアンケート回答者に徳島に行って見たいと思っていた事だけは大きな成果となった。



コラボレーション作品

番組による成果

番組の構成

- ① 湾生という徳島と台湾の繋がりを導入とし**親近感**を持っていただいた
- ② 本藍染という素晴らしい文化を持つ「徳島県」、というわかりやすい内容で**理解度を促進**
- ③ LED企業やサテライトオフィスのように経済的側面でも特色のある「徳島県」、という**印象付け**

単なる観光番組ではなく、徳島県により親近感を持っていただける番組コンテンツ

当番組の**のべ視聴人数は90万人**。この90万人の視聴者の方々には、徳島県の存在を知っていただき、観光・歴史・文化・経済などに興味を示していただき、西日本を訪れた際に訪れてみたい観光都市“徳島”として十分に訴求できたと考えている。

連動事業による成果

連動事業にて実施したアンケート結果では、徳島県の事を知らなかった方も含め、**すべてのアンケート回答者に徳島に行ってみてみたいと思っていただけた事**は大きな成果。

また、イベント中「是非私の工房にも教えに来てほしい」という方が現われたり、このイベント開催をきっかけに、徳島の2名の職人によるワークショップを台中の国立台湾工藝研究所本部で実施(イベント終了直後の1月25日～27日で開催)した。

さらに、台湾政府のプロジェクト(たんぽぽ活動プロジェクト)に参加している学生が、プロジェクトの一環としては日本の藍染文化を研究し、どのような形で台湾の客家文化と結び付けるかを課題として、古庄、矢野両先生を訪れる事が決定。

このように、連動事業をきっかけに、両国の新たな文化的交流が動き始めた事は大きな成果である。

番組ジャンル

今回の番組ジャンルは紀行の形で制作した旅行番組です。内容については双方で事前打ち合わせをした上に、台湾番組と日本番組の特徴を円滑にミックスしました。台湾の視聴者はインフォメーションを多く求め、一方日本の視聴者は物語を語るような展開を好むようです。このような真逆な傾向を調合し、より台湾の視聴者に受け入れやすくしました。

番組テーマ

台湾の視聴者たちは徳島県に対しての認識はあまりないのですが、今回の連携では、「灣生回家」という日台の絆についての映画の要素を加える事により、台湾の視聴者達に徳島県の事より強く周知する事ができました。三立電視にも、台湾の視聴者にも、とてもよいテーマでした。台湾では、旅番組の好みとしては、グルメ番組が好きな傾向が強いのですが、今回四国放送が制作した番組内容は単なるグルメや観光だけではなく、日台双方の文化に工夫を入れましたので、番組がより深くなりました。

演出方法

今回の番組の流れは、四国放送のキャスターと台湾留学生の間で番組を進行しています。もし、今度またこのような番組制作の機会がありましたら、是非とも四国放送のキャスターと台湾の芸能人や専門のキャスターと一緒に演出することができれば、もっと話題や視聴者の目を引く効果が出せると思います。

ご清聴ありがとうございました